

「小河内」便り 第21号 平成25年1月

特定非営利活動法人 小河内プロジェクト（理事長 渡辺眞作）



連絡所 〒731-1171 広島市安佐北区安佐町小河内4579-3

安佐小河内集会所

TEL&FAX 082-835-0831

ホームページURL <http://ogauchi.web.fc2.com/>

1月も下旬になり、遅まきながら新年おめでとうございます。昨年は会員を始め、小河内住民の皆様、関係諸団体や個人の皆様、そして小河内にお越し頂いた都市住民の皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。今年も「源快集楽・小河内」で小河内が元気になるよう頑張ります。引き続きご指導、ご支援を賜りますようよろしくお願い致します。

目次

広島ユネスコ活動奨励賞受賞	P 1
農村体験ツーリズム「炭焼き体験と交流会」	P 2
農村体験ツーリズム「滝山登山」	P 2
Uターン、Iターンのススメ	P 3
「活性化」という意味について	P 3
小河内のとんど	P 4
編集後記	P 4

広島ユネスコ活動奨励賞受賞

広島ユネスコ協会は平和や国際交流、文化遺産、環境保全などの活動の育成と推進を行っている団体ですが、小河内の豊かな自然や歴史と伝統ある文化を保護し、地域ぐるみで次世代に継承する活動が評価され、広島ユネスコ活動奨励賞を受賞した。表彰式が1月19日、広島市文化交流会館で行われ、同会の北川健次会長から当法人安福副理事長に表彰状と盾が授与された。

今年15回目を迎え、学校部門5、社会部門7の学校、団体が受賞した。



表彰状と盾を受け取る安福副理事長



表彰状と盾

農村体験ツアー「炭焼き体験と交流会」

小河内では樹木が休眠中の冬場に伐採し、炭焼きやせんば（暖房や煮炊き用の薪）づくりをしていました。この農閑期に炭やせんばを作り、自家用の暖房や販売して小遣い稼ぎをしていたのです。こうして里山は保全され、人間と自然の調和がとれていたのです。昔の知恵ですね。

炭焼き体験でこうした生活の知恵や文化を学び、今の暮らしを考えましょう。

その後はBBQで交流会です、お楽しみに。

日時 2月16日（土）10：15～15：00

日程 受付 9：30～10：15（小河内集会所）

炭焼き体験 10：30～12：00（桜山炭焼き窯）

食事（BBQ）、交流会 12：30～14：30（小河内集会所）

後片付け、終了 15：00

参加費 2500円（体験料、保険代、食事代、お土産（弥太郎君、竹炭）込み）

募集定員 20人（超えた場合は抽選）

申し込み方法 住所、氏名、年齢、連絡先を明記し、当法人、安佐公民館、安佐北区農林課の何れかにへ1月30日までに。

その他 帽子、手袋、タオル、マスク、汚れても良い服装で、防寒対策でご参加下さい。

少雨決行ですが、大雪等で開催不能が予想される場合は、事前にお知らせします。

農村体験ツアー「滝山登山」

小河内の最高峰滝山（691m）に登山。途中、昭和40年代に消滅した「矢が谷集落跡」を元住民がガイドします。こんな山深い地に人が住んでいたの、とガイドの説明に感動するでしょう。

登山は約1時間30分です、当日体調不良等の場合はご遠慮下さい。

下山後はコーヒーなど飲みながら休息、地元の人と交流します。

日時 3月9日（土）10：00～15：00

日程 9：30～10：00 受付（黒瀬松田宅）

10：00～12：00 説明、準備体操、登山

12：00 頂上で昼食

12：45～14：30 下山

14：30～15：00 交流会（縁側カフェ、農産物等販売市）

参加費 550円 保険料、ガイド料、資料代

募集定員 40人（超えた場合は抽選）

申し込み方法 住所、氏名、年齢、連絡先を明記し、当法人、安佐公民館、安佐北区農林課の何れかにへ2月25日までに。

その他 お弁当、飲み物、登山ができる服装でご参加下さい。

Uターン、Iターンのススメ

小河内地区は、少子高齢化、過疎化という時代潮流の最前線にあり、このままでは「ゆでカエル」になってしまう、との危機感から平成20年末、各種団体長が集まり、対策を話し合いました。21年から2年間かけて13回、都市住民と一緒に全集落を歩いて小河内の自然や歴史的遺産、文化などを観察する「地域資源観察会」を実施。2ヶ月に1回実施したこの観察会は大好評で、多い時には1回約80人の参加者があり、小河内の豊かな自然の魅力や隠れた歴史、文化を発見しました。又消滅した集落跡の農地や廃屋、神社にまで孟宗竹が占領、日本の繁栄の陰を見た思いで、胸の痛むツアーでもありました。又、弥太郎君を生産する炭焼きも復活しました。足元に素晴らしい宝があることを都市住民に教えられ、まさに「燈台下暗し」でした。そして、広島市役所や都市農村活性コーディネーターなどの指導やお力をいただき、地区再生、活性化のプランを纏め、それらを推進するNPO法人を23年4月設立致しました。ハウス食品や白島商店会の農業体験や農村体験ツーリズムで小河内を訪れる都市住民から、小河内は豊かな自然や農村文化が残っており、米や野菜も美味しい、人も親切だ、と小河内の魅力を語っています。農業（一次産業）は高度成長時代、3K（きつい、きたない、くさい）産業と言う暗いイメージが定着、敬遠されていました。あれから40年、今時代が変わり、人間や生き物と自然が共生する里山の魅力、農業が見直されています。農業に対する新しい価値観が生まれ、今、農業は5K産業（健康的で感動があり、考える、カッコいい、稼げる）であると、注目を浴びています。青空のもとで全身を動かし、農地を耕し（健康的）、農産物を育て（感動）、考え、稼げる（10兆円と言われる市場をどう狙うかを考える）、晴耕雨読もできる、まさに（恰好いい）産業だと思っています。地区全体が限界集落化し、危機的状況ですが、「源快集楽」人が集まって楽しいまちにしよう、と頑張っています。都市にお住まいの皆様、小河内へUターン、又Iターンして、新しい農業（耕作放棄地が多くあり）を考え、過疎地を元気にするまちづくりボランティア活動に、自分の新しい生き方を創造する、などに挑戦してみませんか。大歓迎します。お問い合わせやご希望の方は表記までご一報下さい。

「活性化」という意味について

先に行った住民アンケートに小河内を活性化する、と言いながら少しも活性化になっていないじゃないか、と言う意見がありました。活性化の内容をしっかりと説明していなかったことが原因でしょう。活性化と言うフレーズは、経済や社会的用語としてよく使われますが、そもそも「小河内地区を活性化する」とはどういう意味かについて考えてみましょう。小河内に多くの人があるようになって賑やかになった、知らない人と知り合いになった、農産物などが売れて僅かでもお金が入り、情報も入るようになった、そして小河内の人元気がなり、生き生きしてきた、楽しくなってきた、生きがいを感じるようになった、自分の経験や技術が生かされ喜ばれた、希望が湧いてきた、自分たちの住んでいる小河内を見直した等々、こんな状態を総称して活性化、というのではないか、と思っています。要は小河内が以前より変わった、変

わりつつある、ことを感じるのが、活性化だと思います。「小河内に住んで良かった、住んでもらいたい、来て欲しい」、とあなたが思われるようになったら、活性化になった、と思われる証拠でしょう。しかしこれは、人の意識や感じ方の領域ですから、個人差が当然あります。

「幸せ」という言葉と似ていますね。今の状況を幸せと感じている人もあれば、そうでない、と感じている人もいるでしょう。その基準は人により違い、又時により変わります。その程度も異なります。ベリーハッピーと思っている人もあれば、ア・リトル、と思っている人もいるでしょう。絶対的、客観的な物差しはないのですね。活性化には異なる価値観を持つ人との交流が不可欠です。そのため、多くの人々が住む都市との交流を活発にし、ヒト、モノ、カネ、情報が双方に交流、循環する仕組づくり、つまり農都共生社会の建設が必要です。

小河内のDNAを残しながら（変えないで）、新しい時代に向けて変えて行く、ことが重要です。小河内を活性化するためには、住民皆がその価値観を共有することが大切、だと思います。

小河内のとんど

田舎の風物詩「とんど」（子供会主催）が1月13日（日）小河内の田んぼで行われ、交流のある白島商店会からも8人参加、一緒に準備作業や餅焼きなどしながら交流しました。約80人の参加者全員が孟宗竹の切り出しや組み立てなどの準備、点火、豚汁やぜんざいなどいただきました。



大空に向かって勢いよく燃える孟宗竹



燃え落ちたとんどの熱で正月飾りのお餅を焼く

編集後記

先週のNHK大河ドラマで新しいことをすれば必ず反対者が出る、と言っていました。

お互いの価値観の違いを認め、理解しあえる努力が民主主義では必要です。

小河内は何もしなければ少子高齢化、過疎化と言う時代の波に飲み込まれ、沈没の危機的状況にあります。大きな潮流に立ち向うのは多くの人々の力と大変なエネルギー、時間が必要でしょう。

先祖から受け継いだ人の暮らしを守り、財産や歴史、文化を次世代に継承するのは、今に生きる私たちの、そして当法人の大きな使命です。小河内再生の為小異を捨て、大同団結してこの難局を乗り越えましょう。(S)